小学校四年の部　佳作

対象作品／いとうみく著『かあちゃん取扱説明書』童心社

『かあちゃん取扱説明書』

弘前市立豊田小学校　今本　琳太朗

ぼくが、なぜこの本をえらんだかというと、この本の題名にとてもきょうみを持ったからです。読んでみると、この本の主人公の田村哲哉君は、ぼくと同じ小学四年の男子で、いつもかあちゃんにしかられています。テストの点数が悪かったり、忘れ物が多かったりで、どうしたらしかられなくていいかを考えた結果、かあちゃん取扱説明書を作ることにしたというのが始まりです。

この主人公は、ぼくと重なる所が多いなと思いながら読んでいくと、コーヒーメーカーのトリセツを手本に、かあちゃんのトリセツを作る所が楽しかったです。特に、〝各種機能〟をイラストつきで説明しているのを見て大わらいしました。

そして、〝使用方法〟のきほん編で自分がすることを、おうよう編ではきほん編にプラスすること、ちゅうい点ではしてはいけないことを書いていて、かあちゃんをとてもぶんせきしているなと感心しました。ここのぶぶんは、ぼくがこれから生きていくのに、参こうになる考え方だと思いました。

また、ぼくのお母さんと主人公のかあちゃん、ぼくのお父さんと主人公のとうちゃんは、あんがいにていると思いました。お母さんは「早く。」とよくいうし、「ごはんがおいしかった。」というと、うれしそうにしている所。お父さんは、「男同士。」や「ちゃんとしたモノを作れ。」という所がそっくりです。

さいごに、やっぱり人はほめられると気持ちがよくて、気持ちがいいからやさしくなれるんだと思います。そして、そのやさしさでなかよくなれるような気がしました。

今の世界も、やさしさの前に相手をしっかりぶんせきしてほめあったら、せんそうはないのかなと感じました。